

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター住之江安立 作成者：佐藤 旭

作成日：2026年 3 月 10 日 運営推進会議における評価実施日：2026 年 1 月 30 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外						
No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I.理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	地域密着型の具体的な行動がとれていない		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A	ボランティアの活用や地域活動の参加にて繋がりを大切にしている		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	拠点内の情報共有が不足している		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	実施ができていなが、情報は集めるように努めている		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	研修を通して理解を深めるように努めている	A	職員及び家族と一体となっており理解し合って行っている
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A	会社全体で重要事項として取り組んでいる	A	職員と共に家族も虐待防止に努めていきたい
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A	毎月の会議や定期的な研修で話し合い、理解に努めている		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	時間をかけて、わかりやすいように説明をしている		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A	外部評価やお客さま各位の意見を運営に反映に努めている	A	家族も管理者の運営をよく理解し共に協力し合っていきたい。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	フロアミーティングやホーム会議で職員からの意見の聞き取りを行っている		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	就業規定での説明を行っている	B	日頃の職員の努力を家族もよく理解し共に楽しい施設を期待します
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	会社の研修資料は整っているが、時間の確保が十分ではない	B	職員の方も大変なことと思いますが家族も協力し合って楽しい職場にしたい。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	情報収集に努めている		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	お客さまを中心に支援、介助できるように研修を努めている		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	できる限り面会や外出をしていただき、今までの関係性を途切れないように協力している		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：ニチイケアセンター住之江安立 作成者：佐藤 旭

作成日：2026年 3 月 10 日 運営推進会議における評価実施日：2026 年 1 月 30 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外						
No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	お客さまのアセスメントを状況に応じて行い、ケアプランに反映、更新している		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	状況に応じてアセスメントを行いケアプランに反映、更新している	A	本人、家族及び施設と共に話し合い介護内容を作成していきたい
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	介護記録の記載、申し送りで情報を共有し、ケアプランに反映、更新を行っている	A	仕事の内容を理解し一人にいかしていきたい
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A	状況に応じてアセスメントを行いケアプランに反映、更新している		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B	お客さまの状況に合わせて、安全を考慮しながら、近隣へ出かけたり、ボランティアの方々に来ていただき、イベントと一緒に参加できるように努めている		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	医療との連携を取り、お客さまの健康管理に努めている		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	MSWとの連携にて情報共有に努め、家族さまとの相談の上で早期退院を進めている	A	介護者の体調に気を付け病院との関係作に一層努力していきたい
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	医療、家族さまと連携にて利用者が安全で望まれる生活をできる限り提供できるように努めている	A	家族と常に連絡を取り合ってスピードをもって対応してほしい
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A	マニュアルを活用した研修にて意識づけを図っている		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A	BCPIに沿った研修、訓練にて意識づけを図っている	A	関係各所を常に確認して職員全員で知ってほしい

事業所名：ニチケアセンター住之江安立 作成者：佐藤 旭

作成日：2026年 3 月 10 日 運営推進会議における評価実施日：2026 年 1 月 30 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外						
No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	お客さま一人一人に合わせた声掛けを行っている	A	一人一人の性格を理解し対応してほしい
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	お客さまの日々の暮らしをその人らしくサポートするよう努めている		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	食事前後にもお手伝いできることはして頂き、できる範囲でして頂きます	A	季節、行事には利用者も一緒に工夫して手伝うなど
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	毎食後に食事量を確認し、水分も都度摂取を促し嗜好に合わせ対応しています		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	歯科医との連携、アドバイスにてお客さまに合う口腔内の清潔保持に努めている	A	職員さんの手が足りてない思います。ご自分でできる方は声掛けでいいと思います
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	お客さまごとに応じ、水分量などに応じて排泄の声掛けに努めている	A	大変な作業ですが職員の努力にお願い
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	入浴を楽しんでいただくように、入浴剤なども持ち込んで頂く		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	お昼寝の時間をお客さまの状況に合わせて声掛けさせて頂いてます		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	薬局との連携により、薬剤師に各種情報を共有し対応しています	B	薬の管理に十分注意して対応してください
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B	お手伝いなどの役割を持っていたいだいたり、レクリエーション活動で楽しみや生きがいのある生活を提供できるように努めている		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	一人一人での対応はできていなく、家族さまの協力が必要としている		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D	以前は商店街や、スーパー等で自由に買い物ができるように支援していたが、近状はあまりできていないので改善するように努める		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A	個別対応で一部可能		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	季節ごとに壁画をお客さまと作成し、季節を感じて頂くように工夫している	A	建物内の設備等は整備されていて問題ない

事業所名：ニチケアセンター住之江安立 作成者：佐藤 旭

作成日：2026年 3 月 10 日 運営推進会議における評価実施日：2026 年 1 月 30 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない ※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
Ⅳ. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし 方の意向に沿った暮らしができています	B	お客さま中心にできる限り合わすように心が けているが、入浴についてはお身体の状態 もあり、毎日入浴して頂いていない		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らし の習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケ ア・支援を受けることができています	B	お客さまごとのアセスメント、申し送りを徹底 している		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・ 環境面について、日々の状況をもとに、ケ ア・支援を受けることができています	A	近隣に連携している、かかりつけ医があり、 医療面でのサポートを提供しもらい、情報共 有に努めている	A	健康管理等は定期的に行っている
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮ら しの習慣にあった生活ができています	B	入居時のアセスメント内容をもとに、これま での生活習慣に寄り添うよう支援に努めて いる		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切に しているものを、身近(自室等)に持つことが できています	A	ご自宅より家具や小物、嗜好品等を持参し て頂き、使用して頂いている	A	特別問題ない
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外 に出かけることや、催(祭)事に参加するこ とができています	B	希望があれば家族さま付き添いにて自由に参加 して頂いている		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、 わかること・わからないことを踏まえた、役 割や、楽しみごとを行うことができています	A	できる事、できない事の見極めを行い声掛 けさせていただき、役割をもって頂くように努 めている		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひ と時や、活動場面を日々の暮らしの中で得 ることができています	C	お客さま同士の会話に介入し雰囲気づくりに	C	今のところは喜怒哀楽があまり見えない
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と 関わったり、交流することができています	C	地域のボランティアとの交流があり		
49	総合	本人は、このGHIにいることで、職員や地域 の人々と親しみ、安心の日々、よりよい 日々をおくることができています	B	スタッフ、家族さま、地域の皆さまと協力にて本 人さまにとって安全で安心できる生活を提供して いくように努めている	B	日常に大きな変化は見られない

総評

47の自己評価がCとなっております。そこに注目してみました。
利用者自身が昔のことを誰かと楽しく話す機会等があるのか？
そういった場面設定や、スタッフが会話を引き出すなどの関わりをしているのか？
食事の準備や買い物など本人がしたい活動ができるのか？
など
「日々の暮らしの中で」というのは全体プログラムの中で行うレクリエーションなどではなく、
何気ない日常の中で各入居者ができることを活かしながら穏やかに過ごすことができる環
境が認知症ケアでとても大切なことだと思います。
しかし日常の中で本人のしたいことが当たり前にできる環境というのは、アクティブなプロ
グラムを提供することより困難なことだと感じます。

職員一同ご苦労がありますが事故無いようにお願いします。
地域住民との交流をお願いします。

現状における ご指摘事項・事業所の課題

ご指摘事項といたしまして、本人様がいきいきと過ごせる施設環境を整えていく必要があり
スタッフによってスキルの違いも見られるため、スタッフ育成にも力を入れていく必要があります。
また、地域交流が少なくなっておりましたので改善を致します。

参加者サイン欄

家族様代表 山城 正義
安立・敷津浦地域包括支援センター 所長 坂井 薫
安立連合地域活動協議会 池田
ニチケアセンター住之江安立 管理者 佐藤 旭